

修繕契約書（案）

令和3年 月 日

発注者 所在地 湯沢市湯ノ原二丁目1番1号
氏 名 秋田県立湯沢翔北高等学校
校長 佐々木 英憲

受注者 所在地
商号又は名称
氏 名

次の物件の修繕について、秋田県財務規則を遵守のうえ契約を締結し、その証として、本通2通を作成し、記名押印のうえ各自1通を保有する。

1 契約金額 ￥
(うち取引に係る消費税及び地方消費税) ￥

2 物件名等

物件名	数量	単位	金額	摘要
湯沢翔北高等学校雄勝校トイレ洋式化修繕	1	式	¥	
消費税			¥	
合計			¥	

- 3 完成期限 令和4年3月31日
4 場所 秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校（湯沢市下院内字小白岩197-2）
5 契約保証金 公告文7・8による。
6 特別契約事項 以下に記載のとおり。

（納入及び検査）

- 第1条 受注者は、修繕を完成させたときは、その旨を発注者に通知しなければならない。
2 発注者は、前項の通知を受けたときは、その日から10日以内に検査を行い、当該検査の結果を受注者に通知しなければならない。
3 受注者は、前項の検査において不合格となった場合は、すみやかにこれを補修し、又は代品と取り替えて再検査を受けなければならない。この場合においては、前項の規定を準用する。
4 前項の不合格品であっても、仕様書との相違が軽微で、発注者が使用上支障がないと認めるときは、契約金額を相当額減額のうえ、検査に合格したものと見なすことがある。
5 受注者は、あらかじめ発注者の承認を得た場合においては、物品を分納することができる。この場合においては、第1項から第3項までの規定を準用する。

（中間検査）

- 第2条 発注者は、必要があるときは、中間検査を行い又は納入計画その他必要と認める事項について、受注者に報告を求めることができる。

（代金の支払い）

- 第3条 発注者は、受注者の適法な支払請求書を受理した日から30日以内に代金を支払

うものとする。

(危険負担)

第4条 第1条第2項から第5項までの検査合格前に生じた当該修繕目的物についての損害は受注者の負担とする。ただし、発注者の責に帰すべき理由による場合は、発注者の負担とする。

(担保責任)

第5条 受注者は、当該修繕目的物の検査合格後1年間、その隠れた瑕疵について補修し、又は補修に代え、損害を賠償する責任を負うものとする。

(完成期限の延長)

第6条 発注者は、次の各号の一に該当すると認められるときは、完成期限を延長することができる。

- 一 受注者が天災その他不可抗力による理由により、完成期限内に契約を履行することができないとき。
- 二 受注者が自己の責に帰する理由により、完成期限内に契約を履行することができないとき。
- 2 前項各号の場合においては、受注者は発注者に対し遅滞なくその理由を付した書面により完成期限内に、その延長を求めなければならない。
- 3 完成期限の延長日数は、書面をもって定めるものとする。

(履行遅滞)

第7条 発注者が、前条第1項第二号の規定により、完成期限の延長を承認したときは、乙は、規定の完成期限の翌日から納入の日までの日数（検査に要した日数を除く。）に応じ、年2.5パーセントの割合を乗じて得た額を違約金として発注者に支払わなければならない。

(権利又は義務の譲渡等)

第8条 受注者は、この契約によって生じる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は継承させてはならない。ただし、発注者の承認を得た場合は、この限りでない。

(一括委任または一括下請負の禁止)

第9条 受注者は、業務の全部または主体的部分を一括して第三者に委任し、または請負わせてはならない。ただし、発注者の承諾を得た場合はこの限りでない。

(解除)

第10条 発注者は、次の各号の一に該当する場合には、この契約を解除することができる。この場合において、受注者は、解除により生じた損害賠償を請求することができない。

- 一 受注者の責に帰する理由により、期限内に契約を履行しないとき、又は履行する見込みがないと認められるとき。
- 二 受注者が、この契約の条項に違反したとき。
- 三 前2号に掲げる場合のほか、この契約に違反し、その違反によりこの契約の目的を達成することができないと認められるとき。
- 四 受注者が次のいずれかに該当するとき。
- イ 役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役

員又はその支店等の契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この号において同じ。)が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号。以下「暴力団対策法」という。)第2条第6号に規定する暴力団員(以下この号において「暴力団員」という。)であると認められるとき。

ロ 暴力団(暴力団対策法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この号において同じ。)又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。

ハ 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。

ニ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。

ホ 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

ヘ 再委託契約その他の契約にあたり、その相手方がイからホまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

ト 受注者が、イからホまでのいずれかに該当する者を再委託契約その他の契約の相手方としていた場合(ヘに該当する場合を除く。)に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

2 発注者は、受注者が受注者の責任によらない理由で契約の解除を申し出たときは、この契約を解除することができる。

3 受注者は、第1項又は前項の規定によりこの契約が解除されたときは、受注者は解除部分に対する100分の10に相当する額の賠償金を発注者に支払わなければならない。この場合において、受注者が契約保証金を納付しているときは、発注者はその契約保証金を賠償金に充当できるものとする。

(通報報告)

第11条 受注者は、暴力団、暴力団準構成員、暴力団関係者、総会屋その他の反社会的勢力(以下、「反社会的勢力」という)による不当要求又は工事妨害(以下、「不当介入」という)を受けた場合には、断固としてこれを拒否し、直ちに警察への通報を行うとともに、発注者に報告しなければならない。

2 発注者は、受注者が正当な理由無くして前項に違反している事実を確認した場合、催告なしに契約を解除することができる。

(費用の負担)

第12条 補修及び検査に要する費用(不合格品の引き取りに要する費用を含む。)は、全て受注者の負担とする。

(個人情報の保護)

第13条 受注者は、この契約による事業を実施するための個人情報の取扱いについては、別紙「個人情報取扱特記事項」を守らなければならない。

(その他)

第14条 この契約について定めのない事項については、必要に応じ、発注者と受注者が協議して定めるものとする。

個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 契約者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約の業務の実施にあたっては個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の取り扱いを適正に行わなければならない。

(秘密の保持)

第2 契約者は、この契約による業務に関して知り得た個人情報をみだりに他に漏らしてはならない。この契約による業務が終了し、又はこの契約が解除された後においても、同様とする。

(収集の制限)

第3 契約者は、この契約による業務を行うために個人情報を収集するときは、業務を行うために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(適正管理)

第4 契約者は、この契約による業務に関して知り得た個人情報の漏えい、滅失及びき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(目的外利用及び提供の禁止)

第5 契約者は、甲の指示又は承認があるときを除き、この契約による業務に関して知り得た個人情報を契約の目的以外の目的に利用し、又は第三者に提供してはならない。

(複写又は複製の禁止)

第6 契約者は、依頼主の承認あるときを除き、この契約の業務を処理するために依頼主から引き渡された個人情報が記録された資料等を複写し、複製し、又はこれらに類する行為をしてはならない。

(再委託の禁止)

第7 契約者は、この契約による業務を行うための個人情報の処理は、自ら行うものとし、依頼主の承認があるときを除き、第三者にその取り扱いを委託又はこれに類する行為をしてはならない。

(資料等の返還等)

第8 契約者は、この契約を処理するために依頼主から引き渡され、又は契約者自らが収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等は、業務完了後直ちに依頼主に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、依頼主が別に指示したときは、その指示に従うものとする。

(従事者への周知)

第9 契約者は、この契約に従事している者に対して、在職中及び退職後においてもその業務に関して知り得た個人情報をみだりに漏らしてはならないこと、又は不当な目的に使用してはならないこと、その他個人情報の保護に関し必要な事項を周知するものとする。

(実地検査)

第10 依頼主は、必要があると認めるときは、契約者がこの契約による業務の執行にあたり取り扱っている個人情報の状況について、随時実地に調査することができる。

(事故発生時における報告)

第11 契約者は、この特記事項に違反する事態が生じ、又は生ずるおそれのあることを知ったときは、速やかに依頼主に報告し、依頼主の指示に従うものとする。